

ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」

「接続」と「孤立」をテーマに、 世界のいまを考える



第1弾参加アーティストと企画概要を発表

横浜市中で3年に1度行われる現代アートの国際展、ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」が、8月4日(金)に開幕します。このたび、第1弾の参加アーティストと企画概要を発表することとなりましたので、お知らせいたします。

[主な特徴]

1. 「接続」と「孤立」をテーマに、世界のいまを考える (記者発表資料 5、6、7 ページ)

＜島＞＜星座＞＜ガラパゴス＞は、接続や孤立、想像力や創造力、独自性や多様性などを表すキーワードです。

いま、世界はグローバル化が急速に進む一方で、紛争や難民・移民の問題、英国の EU 離脱、ポピュリズムの台頭などで大きく揺れています。

本トリエンナーレでは、「接続」と「孤立」をテーマに、こうした相反する価値観が複雑に絡み合う世界の状況について考えます。そして、人間の勇気と想像力や創造力がどのような可能性を拓くことができるのか、開国、開港の地・横浜から新たな視点を発信します。

2. 厳選された作家の個展群が星座のように連なり、作家の創作世界が体験できる ～第1弾 参加アーティスト [26 アーティスト+1 プロジェクト] (8 ページ)

アイ・ウェイウェイ、オラファー・エリアソン、マウリツィオ・カテルランら国際的に活躍する著名なアーティストや日本で初めて本格的に紹介されるワエル・シャウキーほか、カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ、リクリット・ティラヴァーニヤの4名が共同作品を、小沢剛、宇治野宗輝、シュシ・スライマン、プラバヴァティ・メッパイルらが新作を発表し、最終的には約40組のアーティストが参加します。

アーティストを厳選し、その多くが複数作品を展示することで、小さな個展群が緩やかにつながり、星座あるいは多島海を形作るように展覧会を構成します。鑑賞者がそれぞれ、個々のアーティストの創作世界に深く触れつつ、その関係性について考えるきっかけを作ります。

3. 今までとは異なる、美術以外の「他ジャンルとの接続」「対話・協議」を重視した取り組み ー公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」全プログラムを発表 (15 ページ)

登壇者に、参加アーティストや構想会議メンバーを始め、吉見俊哉氏、ドミニク・チェン氏、西沢立衛氏、平野啓一郎氏ら様々な分野の専門家を迎え、2017年1月から11月3日(金・祝)まで全8回開催します。視覚と対話の両面から議論と共有・共生の機会を目指します。

ー「構想会議」によってタイトルとコンセプトを議論、決定する新しい取り組み (14 ページ)

本トリエンナーレでは、ジャンルや世代を超えた9名の専門家から構成される「構想会議」によって、これからの時代に必要な価値を議論し、展覧会コンセプトを検討、タイトルを決定しました。国際展の構想に美術以外の多様なジャンルの専門家が本格的に参画する本会議は、国際展の今後のかたちやさらなる可能性を探索する新しい取り組みです。

4. 横浜の歴史を踏まえ、横浜のまち全体に広がるトリエンナーレ (6、16 ページ)

横浜の歴史的背景を視野に、会場には日本の近代化を象徴する市内の歴史的建造物を選定し、横浜の史実や地誌に言及する複数のアーティストの作品も展示します。

また、会期中は、横浜시가推進する創造界隈拠点のアートプログラム等を始め、市内企業やアートNPO、市民サポーターとも連携しながら、横浜のまち全体でトリエンナーレを盛り上げます。

[参加アーティスト (8 ページ)] 計 26 組のアーティスト／1 プロジェクト (今後更新予定)

アイ・ウェイウェイ (艾未未) / ブルームバーグ & チャナリン / マウリツィオ・カテラン / ドン・ユアン (董媛) /
サム・デュラント / オラファー・エリアソン / アレックス・ハートリー / 畠山直哉 / カールステン・ヘラー、
トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ & リクリット・ティラヴァーニャ / ジェニー・ホルツァー /
クリスチャン・ヤンコフスキー / 川久保ジョイ / 風間サチコ / ラグナル・キャルトンソン / マップオフィス /
ブラバヴァティ・メッパイル / 小沢剛 / ケイティ・パターソン / パオラ・ピヴィ / キャシー・ブレンダーガスト /
ロブ・プリティット / ワエル・シャウキー / シュシ・スライマン / ザ・プロペラ・グループ / 宇治野宗輝 / 柳幸典

[プロジェクト] Don't Follow the Wind

※[参加アーティスト] には、個人・団体名等を含みます。2017 年 4 月 18 日現在。

[チケット情報 (19 ページ)]

ヨコハマトリエンナーレ2017	一般	大学・専門学校生	高校生 (中学生以下無料)
	鑑賞券 前売 1,500円 (当日 1,800円)	前売 900円 (当日 1,200円)	前売 500円 (当日 800円)
セット券	前売 2,100円 (当日 2,400円)	前売 1,500円 (当日 1,800円)	前売 1,100円 (当日 1,400円)

ヨコハマトリエンナーレ2017 鑑賞券

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市開港記念会館地下に会期中 1 回ずつ入場できます (別日程も可)。
入場当日は、同一会場に限り再入場いただけます。

セット券

「ヨコハマトリエンナーレ 2017 鑑賞券」「BankART Life V パスポート」「黄金町バザール 2017 パスポート」がセット
になったお得なチケットです。「BankART Life V」および「黄金町バザール 2017」には、会期中何度でも入場できます。

前売チケットは 4 月 21 日 (金) から発売。PC・スマートフォンで公式ウェブサイトから購入できます。
また、横浜美術館などチケット取扱場所、プレイガイド、コンビニ、鉄道駅売店でも購入可能。

《チケットに関するお問い合わせ》

ヨコハマトリエンナーレ 2017 チケット販売センター TEL : 045-478-6090 (10:00-12:00、13:00-17:00 / 土日祝休み)

[開催概要 (4 ページ)]

展覧会タイトル ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」

ディレクターズ 逢坂恵理子 (OSAKA Eriko) 横浜美術館館長
三木あき子 (MIKI Akiko) キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター
柏木智雄 (KASHIWAGI Tomoh) 横浜美術館副館長、主席学芸員

会期 2017年8月4日 (金) — 11月5日 (日) 開場日数: 88日間
休場日: 第2・4木曜日 (8/10、8/24、9/14、9/28、10/12、10/26)

開場時間 10:00 — 18:00 (最終入場17:30)
[10/27 (金)、28 (土)、29 (日)、11/2 (木)、3 (金・祝)、4 (土) は20:30まで開場 (最終入場20:00まで)]

主催 横浜市、(公財) 横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

《お問い合わせ》 ハローダイヤル : 03-5777-8600 (8:00-22:00)

ヨコハマトリエンナーレ2017公式ウェブサイト : www.yokohamatriennale.jp

《プレスリリースお問い合わせ先》横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 (担当: 西山、高橋)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 横浜美術館内

TEL : 045-663-7232 (平日 10:00 ~ 18:00) FAX : 045-681-7606 E-MAIL : press@yokohamatriennale.jp



記者会見資料

2017年4月18日(火)

目次

未来への希望につなげるトリエンナーレへ／林文子	横浜トリエンナーレ組織委員会 名誉会長 代表・横浜市長	3
開催概要		4
ヨコハマトリエンナーレ2017について／逢坂恵理子	ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター 横浜美術館館長	5
横浜とトリエンナーレ／柏木智雄	ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター 横浜美術館副館長 主席学芸員	6
企画コンセプト、内容について／三木あき子	ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター キュレーター、 ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター	7
参加アーティスト		8－12
作品解説抜粋		13
構想会議メンバー		14
公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」		15
ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に楽しめるアートプログラム		
「セット券」で鑑賞できるプログラム		16
期間中に横浜で開催される主なアートプログラム		17
ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム		18
ヨコハマトリエンナーレ2017を盛り上げる市民活動		18
チケット情報		19
交通アクセス・案内図		20
支援／特別協力／後援／特別協賛／協賛／助成／認証		21
横浜トリエンナーレについて		22
お問い合わせ		23

未来への希望につなげるトリエンナーレへ

2001年にスタートした横浜トリエンナーレは、多くの方々に支えられ、今年で6回目の開催を迎えます。そしてこのたび、開幕を約3か月後に控え、ヨコハマトリエンナーレ2017の出展アーティストの方々を発表させていただき運びとなりました。

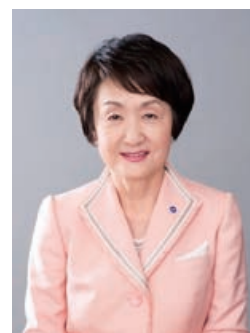
世界各地で多様な国際展が開催されるなか、横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として発展し続け、時代を捉えたテーマ設定により、新しい価値観と文化を継続的に世界へ発信してきました。また横浜市は、文化芸術の力で都市の魅力を高めるまちづくり「文化芸術創造都市施策」を推進しており、横浜トリエンナーレはまさにそのリーディングプロジェクトです。横浜に文化芸術の力で新たな活力を生み出す、その歩みとともに、横浜トリエンナーレは発展してきました。

今回は、横浜美術館と横浜赤レンガ倉庫1号館を主会場として展開し、国際都市、そして文化芸術創造都市・横浜のオリジナリティにあふれる国際展にしていきます。横浜の街に残る開港以来の歴史的・文化的資産を文化芸術の創造性で輝かせるとともに、BankART Life Vや黄金町バザール2017など創造界隈拠点のプログラム、市内企業やアートNPO、市民サポーターの皆様との連携を一層進め、横浜の街全体を楽しんでいただけるトリエンナーレを目指します。更に、共生社会の実現に向けた機運醸成を目的としたヨコハマ・パラトリエンナーレ2017を同時期に開催するとともに、未来を担う子どもたちが、世界の多様な芸術作品に触れることで、感性を育み、幅広い価値観の理解にもつながるよう、次世代育成にも取り組んでまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた機運が一層高まるなか、ヨコハマトリエンナーレ2017が、多くの方々にとって未来への希望となり、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成につながることを願っております。

開催にあたりご尽力をいただいております皆様に、改めて深く感謝いたします。また引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ヨコハマトリエンナーレ2017に、ぜひご期待ください。



横浜トリエンナーレ組織委員会 名誉会長 代表
横浜市長 林 文子

開催概要

展覧会タイトル： ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」
Yokohama Triennale 2017 “Islands, Constellations and Galapagos”

ディレクターズ： 逢坂恵理子 (OSAKA Eriko) 横浜美術館館長
三木あき子 (MIKI Akiko) キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティストティックディレクター
柏木智雄 (KASHIWAGI Tomoh) 横浜美術館副館長、主席学芸員

構想会議メンバー： スハーニヤ・ラフェル (Suhanya RAFFEL) M+美術館 エグゼクティブ・ディレクター
スプツニ子! (Sputniko!) アーティスト、マサチューセッツ 工科大学メディアラボ助教
高階秀爾 (TAKASHINA Shuji) 美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授
リクリット・ティラヴァーニヤ (Rirkrit TIRAVANIJIA) アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授
鷲田清一 (WASHIDA Kiyokazu) 哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長
養老孟司 (YORO Takeshi) 解剖学者、東京大学名誉教授

会期： 2017年8月4日（金）— 11月5日（日）開場日数：88日間
休場日：第2・4木曜日（8/10、8/24、9/14、9/28、10/12、10/26）

会場： 横浜美術館 横浜西区みなとみらい3-4-1
横浜赤レンガ倉庫1号館 横浜市中区新港1-1-1
横浜市開港記念会館 地下 横浜市中区本町1-6
※上記の有料会場以外でも関連するアートプロジェクトを実施する予定です

開場時間： 10:00 — 18:00（最終入場17:30）
[10/27（金）、10/28（土）、10/29（日）、11/2（木）、11/3（金・祝）、11/4（土）は20:30まで開場（最終入場20:00）]

主催： 横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、
横浜トリエンナーレ組織委員会

ヨコハマトリエンナーレ2017企画体制：
キュレトリアル・メンバー／木村絵理子*、松永真太郎*、片多祐子*、金井真悠子*、
日比野民蓉*、大下裕司、中野仁詞（公益財団法人神奈川芸術文化財団）
コーディネーター・チーム／庄司尚子*、田中彩、倉茂なつ子
空間設計／藤原徹平（建築家／横浜国立大学大学院Y-GSA准教授）

★＝横浜美術館所属

お問い合わせ 【ハローダイヤル】 03-5777-8600（8:00-22:00）
【ヨコハマトリエンナーレ2017公式ウェブサイト】 www.yokohamatriennale.jp

ヨコハマトリエンナーレ2017について

分断され孤立しているものを対話と思考と想像力でつなげ、 新しい可能性を切り開く

今年はビエンナーレ、トリエンナーレと呼ばれる現代美術の国際展ラッシュの年です。海外では10年に一度のミュンスター彫刻プロジェクトと、ヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタの同年開催を控え、国内では横浜とともに多数の国際展が開催予定です。第1回横浜トリエンナーレの2001年には想像できなかったほどの活況ぶりです。

こうした状況のもと、第6回を迎える本トリエンナーレは「横浜の歴史や横浜らしさ」を意識しつつ、美術だけではなく多方面の専門家の協力を得て、対話、協議を重視した今までとは異なる方法によって準備を進めてきました。

グローバリズムの功罪や地球環境の変化、人々の内向化や孤立など、世界の課題が私たちの日常にも深くかかわる今日、他者を知り、対話を重ねそして立ち止まって考えることの重要性は益々高まっているといえるでしょう。

展覧会、構想会議、ヨコハマラウンドを三位一体とした背景には、異なるものや、分断され孤立しているものを対話と思考と想像力とによってつなげ、新しい可能性を切り開く一助としたいという思いがあります。また、9月に横浜で開催予定のIBA* 総会では、世界の国際展関係者が集い、顔の見える交流と対話の場を目指します。

ヨコハマトリエンナーレ2017を通して、多くの方々が現代美術の創造性と多様な視点を味わい、想像力の翼を広げて下さることを願っています。

*IBA=International Biennial Association(国際ビエンナーレ協会)



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
横浜美術館館長 逢坂恵理子

横浜とトリエンナーレ

「開港」の地・横浜からの発信

1867年、幕末の日本は「大政奉還」によって近代化へと大きく舵を切りました。今年は、それから150年目にあたります。この大政奉還によってサムライによる政治が終わり、明治という新時代が拓かれました。この大改革の一因は、安政期の開国とその象徴ともいうべき「開港」にあったと言ってよいでしょう。江戸時代においては、一寒村に過ぎなかった横浜村は、1859年に開港場の一つとなり、急速にインフラが整備されました。そして、その必然として内外の文物や人々が新たに交錯する場所、すなわちガラパゴス的な「孤立」から「接続」する場へと劇的な変貌を遂げ、日本の近代化を牽引する街の一つとして発展を遂げました。

ヨコハマトリエンナーレ2017は、「接続性」や「孤立」など全体のテーマに緊密に関連する複数の観点を手がかりとしながら、今日的な諸問題を分野横断的に考察することを目指しています。その一環として、一見、現代アートとは無関係と思える横浜の歴史的背景を意識的に視野に入れていきます。すなわち、会場のひとつとして日本の近代化を象徴する市内の歴史的建造物を選定していることも、そして横浜の史実や地誌などに言及する複数のアーティストを出品作家に含むことも、そうした視点に基づいています。また、本トリエンナーレのテーマに深く共鳴すると思われる会場近隣の歴史的な場所や施設などを複数特定し紹介していくことも、同じ視点に基づくものです。



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
横浜美術館副館長 主席学芸員 柏木智雄

企画コンセプト、内容について

「接続性」と「孤立」から世界を考える

世界は今、従来の枠組みを超えて様々なネットワークが拡大する一方で、紛争や難民・移民の問題、保護主義や排外主義、ポピュリズムの台頭といった課題に直面し、大きく揺れています。また人間の処理能力を大幅に超える量の情報が氾濫し、高度に複雑化する環境の中、SNS などのコミュニケーションツールの急速な発達により、ネット上の小さなコミュニティやグループの中だけに身を置くような世界観の島宇宙化が進んでいるようにも見受けられます。さらには、これまでの大国や中央集権の論理に抗うかのような様々な小規模共同体の動きも活発化しています。

このような従来の社会の枠組みや価値観が大きく揺らぎつつある今日、ヨコハマトリエンナーレ 2017 では、「島と星座とガラパゴス」というタイトルのもと、世界の「接続性」と「孤立」の状況について、アートを通じて様々な角度から考察します。そして、相反する概念や現象が複雑かつ流動的に絡み合う世界や、独自性・多様性の在り様について、さらには先行きの見えない時代に、人間の持つ勇気と想像・創造力が、未来に向けた新たなヴィジョンやグランド・デザインをどのように導き出し得るのか、思索を巡らせます。

展覧会場となる横浜美術館と横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市開港記念会館には、世界各地からの約 40 組のアーティストたちの多種多様なメディアの作品が展示されます。作家を厳選し、多くの作家が複数の作品を展示することで、小さな個展の集合体のような構成となる予定です。これは、鑑賞者が個々の作家の創作世界に、より深く触れられるよう意図したものであり、同時に、異なる星や島が緩やかに繋がり星座や多島海を形成するように、作品世界が連なっていくイメージも反映しています。

参加作家には、現在のアートの主流とは一線を画し、独自の手法で課題に取り組み続けたり、既存の枠組みや概念を超えた活動を領域横断的に推し進める作家が含まれるとともに、複数アーティストの協働による作品や、直面する社会問題に芸術的観点からアプローチする作品・プロジェクトもあります。各作品が扱うテーマは、個人と社会、私と他者の関係、国家や境界について、あるいは異なる歴史観や人類の営み・文明への問いから、極めて日本的な孤立の問題まで多岐にわたりますが、鑑賞者は様々なテーマを巡ることで、歴史の循環や大陸的世界と島的世界、オルタナティブといった点について思考を発展させることになるでしょう。

本トリエンナーレでは、企画の構想にあたり、異なる分野の専門家を含む「構想会議」を通して、コンセプトをより多角的に掘下げました。また、展覧会に合わせて幅広い領域の専門家を迎えた公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」を実施し、視覚と対話の両面による「議論」「共有・共生」の機会となることを考えました。さらに、横浜国立大学大学院 Y-GSA など近隣の教育機関との連携や、横浜の歴史的施設にも注目し、開港、開国の歴史を背景に、複眼的かつ身近な観点からテーマに迫ることも試みます。



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティストディレクター
三木あき子

参加アーティスト

アイ・ウェイウェイ (艾未未)

AI Weiwei

1957年、中華人民共和国 (北京) 生まれ
ドイツ (ベルリン) 在住



《安全な通行》2016
© Ai Weiwei Studio

ブルームバーグ&チャナリン

BROOMBERG & CHANARIN

アダム・ブルームバーグ / 1970年、南アフリカ (ヨハネスブルグ) 生まれ
オリバー・チャナリン / 1971年、イギリス (ロンドン) 生まれ
イギリス (ロンドン) 在住



《フロイトの長椅子の残存繊維を石英模倣検板を用いて観察した際の干渉縞》
2015
© Broomberg and Chanarin
Photography: Jack Hems. Courtesy Lisson Gallery.

マウリツィオ・カテラン

Maurizio CATTELAN

1960年、イタリア (パドヴァ) 生まれ
アメリカ (ニューヨーク) 在住

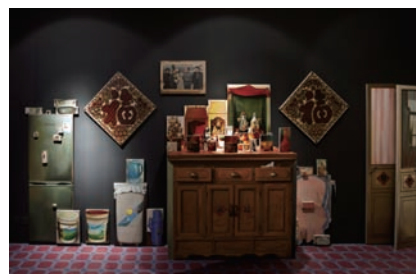


《スベルミニ》1997
Photo: Attilio Maranzano
Courtesy: Maurizio Cattelan's
Archive and Perrotin gallery

ドン・ユアン (董媛)

DONG Yuan

1984年、中華人民共和国 (大連) 生まれ
中華人民共和国 (三河) 在住



「おばあちゃんの家」シリーズより《祭壇》2013
画像提供: 董媛

サム・デュラント

Sam DURANT

1961年、アメリカ (ワシントン州シアトル) 生まれ
アメリカ (カリフォルニア州サンタモニカ) 在住



《ドリーム・マップ、北極星》(部分)
2016
Courtesy of the artist and Blum & Poe,
Los Angeles, Tokyo, New York
Photo by: Josh White

オラファー・エリアソン

Olafur ELIASSON

1967年、デンマーク (コペンハーゲン) 生まれ
デンマーク (コペンハーゲン)、ドイツ (ベルリン) 在住



※プレス用画像は5月10日(水)から提供いたします

アレックス・ハートリー

Alex HARTLEY

1963年、イギリス（ロンドン）生まれ
イギリス（デボン）在住



《Nowhere Island（どこにもない島／ここが国土）、メヴァギジー村へ行く》
2012

Photo by Max McClure

畠山直哉

HATAKEYAMA Naoya

1958年、日本（陸前高田）生まれ
日本（東京）在住



《Terril #16931》2010, Loos-en-Gohelle
©HATAKEYAMA Naoya

カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、 アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニャ

Carsten HÖLLER, Tobias REHBERGER,
Anri SALA & Rirkrit TIRAVANIJA

カールステン・ヘラー / 1961年、ベルギー生まれ
トビアス・レーベルガー / 1966年、ドイツ生まれ
アンリ・サラ / 1974年、アルバニア生まれ
リクリット・ティラヴァーニャ / 1961年、アルゼンチン生まれ



《ジルバ タンゴフライ タグプラント》2016

Produced at STPI - Creative Workshop & Gallery, Singapore ©The Artists/STPI
Photo: Katarina Traskelin

ジェニー・ホルツァー

Jenny HOLZER

1950年、アメリカ（オハイオ州ガリポリス）生まれ
アメリカ（ニューヨーク）在住



《自明の理》より 1977-79

電車の車両

Hamburg, Germany, 1987

©1987 Jenny Holzer, member Artists Rights Society (ARS), NY

クリスチャン・ヤンコフスキー

Christian JANKOWSKI

1968年、ドイツ（ゲッティンゲン）生まれ
ドイツ（ベルリン）在住



《重量級の歴史（ルドヴィック・ワリンスキー）》2013

Photographer: Szymon Rogynski
Courtesy: the artist, Lisson Gallery

川久保ジョイ

KAWAKUBO Yoi

1979年、スペイン（トレド）生まれ
イギリス（ロンドン）在住



《千の太陽の光が一時に天空に輝きを放ったならば》2016

©Yoi Kawakubo, 2016

風間サチコ

KAZAMA Sachiko

1972年、日本（東京）生まれ
日本（東京）在住



《人間富嶽》2017

撮影：坂田峰夫

ラグナル・キヤルタンソン

Ragnar KJARTANSSON

1976年、アイスランド（レイキャヴィーク）生まれ
アイスランド（レイキャヴィーク）在住



《ザ・ビジターズ》2012

Nine channel video projection

Courtesy of the artist, Luhring Augustine, New York and i8 Gallery, Reykjavik

Photo: Elisabet Davids

マップオフィス

MAP Office

1996年結成、香港（紫湾）を拠点に活動
ローラン・グティエレス/1966年、モロッコ（カサブランカ）生まれ
ヴァレリー・ボルトフェ/1969年、フランス（サン＝ティエンヌ）生まれ



《色覚障がいのための島》2014

プラバヴァティ・メッパイル

Prabhavathi MEPPAYIL

1965年、インド（ベンガルール）生まれ
インド（ベンガルール）在住



《rw/セブンティーン》2013

©Prabhavathi Meppayil 2013,

Courtesy GALLERY SKE,

Photographer: Manoj Sudhakaran.

小沢剛

OZAWA Tsuyoshi

1965年、日本（東京）生まれ
日本（さいたま）在住



《帰って来たペインターF》（部分）2015

ペインティング：トロトアート（アチョ・カリスマ、ソビリン）

撮影：椎木静寧

森美術館蔵

ケイティ・パターソン

Katie PATERSON

1981年、イギリス（グラスゴー）生まれ
ドイツ（ベルリン）在住



《化石のネックレス》（部分）2013

© Katie Paterson.

Courtesy James Cohan, New York.

パオラ・ピヴィ

Paola PIVI

1971年、イタリア（ミラノ）生まれ
アメリカ（アラスカ州アンカレッジ）在住



《I and I（芸術のために立ち上がらねば）》2014
Photo: Guillaume Ziccarelli
Courtesy of the Artist & Perrotin

キャシー・プレnderガスト

Kathy PRENDERGAST

1958年、アイルランド（ダブリン）生まれ
イギリス（ロンドン）在住



《アトラス25 リスボン・バダホス》2016

ロブ・プリーツ

Rob PRUITT

1964年、アメリカ（ワシントンD.C.）生まれ
アメリカ（ニューヨーク）在住



《オバマ・ペインティング》2009 - 2017
Courtesy of the artist and Gavin Brown's enterprise, New York/Rome.

ワエル・シャウキー

Wael SHAWKY

1971年、エジプト（アレクサンドリア）生まれ
エジプト（アレクサンドリア）在住



《十字軍芝居Ⅲ：聖地カルバラーの秘密》より
2015
© Wael Shawky:
Courtesy Lisson Gallery

シュシ・スライマン

Shooshie SULAIMAN

1973年、マレーシア（ムアル）生まれ
マレーシア（セランゴール州スパン・ジャヤ）在住



《マレーの薔薇》展示風景 2016 カディスト美術財団（パリ）
Courtesy of the Artist
Photo: Aurélien Mole.

ザ・プロペラ・グループ

The Propeller Group

2006年結成、ベトナム（ホーチミン）およびアメリカ（ロサンゼルス）を拠点に活動
フナム/1974年、ベトナム（サイゴン）生まれ
マット・ルセーロ/1976年、アメリカ（カリフォルニア州アップランド）生まれ
トゥアン・アンドリュウ・グエン/1976年、ベトナム（サイゴン）生まれ



《映画『J・エドガー』のJ・エドガー・フーバーに扮するレーニン》2013
© The Propeller Group.
Courtesy of James Cohan, New York

宇治野宗輝

UJINO

1964年、日本（東京）生まれ
日本（東京）在住

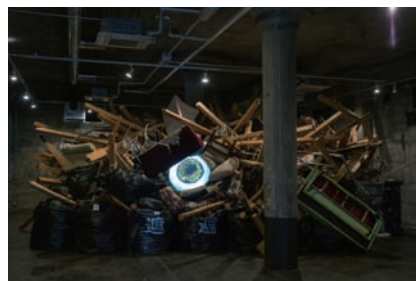


《THREE SIZE》2002
Photo by Keizo Kioku
©UJINO
Courtesy of YAMAMOTO GENDAI

柳幸典

YANAGI Yukinori

1959年、日本（福岡県）生まれ
日本（尾道）在住



《Project God-zilla —Landscape with an Eye—》2016
Photo by Tatsuhiko NAKAGAWA

プロジェクト

Don't Follow the Wind

2015年3月11日より福島県帰還困難区域内某所にて展示を開始



Don't Follow the Wind
Curatorial collective on a site visit
in the Fukushima exclusion zone
Courtesy of Don't Follow the Wind

計26組 1プロジェクト [2017年4月18日現在/今後更新予定]

※写真は参考画像を含みます。

※参加アーティストは、個人・グループを含みます。

※参加アーティスト名は、原則、氏またはグループ名のアルファベット順です。

※アーティストの基本情報は、原則、出生国・地域（市）、在住国・地域（市）です。

作品解説抜粋

※プレス用画像として貸出可能です。ご希望の方は別添のプレス用画像申込フォームにご記入いただくか、公式ウェブサイトから申請してください。

ヨコハマトリエンナーレ2017

島と星座とガラパゴス

YOKOHAMA TRIENNALE 2017

Islands, Constellations & Galapagos

アイ・ウェイウェイ (艾未未)



《安全な通行》2016

常に自らの置かれたリアルな社会状況に関わり、芸術概念を拡張し続ける作家が、欧州に拠点を移した2015年以降取り組んでいる難民問題に関連した作品。レスボス島に辿り着いた難民が実際に着用していた大量の救命胴衣を用いた展示は、権力間の軋轢から逃れ、自由を獲得するために命をかけて海を渡る難民ひとりひとりの人生や苦難を表すとともに、個の尊厳について問いを投げかけます。

ブルームバーグ&チャナリン



《フロイトの長椅子の残存繊維を石英楔型検板を用いて観察した際の干渉縞》2015

精神分析の創始者ジークムント・フロイトが、晩年に使用した診察用の長椅子の付着物を取り上げた作品。毛髪など「患者」のものと思われる遺留物のDNA解析画像をタペストリーに織り上げています。戦争やテロなど、人類間の軋轢とそこに潜む狂気などをテーマとしてきた作家が、理性を超えた精神病理の不可思議な世界を、一見接点のない現代の科学技術と伝統的な手工芸を融合させて視覚化した作品です。

クリスチャン・ヤンコフスキー



《重量級の歴史(ルドヴィック・ワリンスキー)》2013

ポーランドの重量挙げナショナル・チームの現役選手が、ワルシャワ市内にある記念碑的な公共彫刻を果敢に持ち上げようとする様子を、ユーモアとペーソスに満ちた映像と写真で表現した作品です。国家を代表するスポーツ選手をしても持ち上げることができない巨大な公共彫刻は、人々が共有していると信じている「歴史」の物々しさを象徴しています。

マップオフィス



《色覚障がいのための島》2014

島や海岸線に暮らす人々、その環境や生態系にかかわるフィールドワークを続けながら、分野横断的な視点から島・領海・境界・自治などについて研究を続ける2人組ユニットによる作品。石原式色覚検査表から着想して、ピンクと緑のウニの殻を円形の台の上に並べ置き、69という「陰陽」の太極図を想起させる文字を浮かび上がらせています。文字を判読する行為にみる多様さ、ひいてはコミュニケーションの可能性と不可能性、境界や領域の不確かさなど、さまざまな解釈が可能な作品です。

ケイティ・パターソン



《化石のネックレス》2013

世界各地で採取された170種の化石を、小粒の玉に加工し繋げてネックレスにした作品。化石は、地球の歴史や進化の過程に沿って時代順に配列されています。作家は、地質学や天文学、考古学などの異分野から得られる様々な情報を駆使して、壮大な時空を表現しています。

パオラ・ピヴィ



《I and I(芸術のために立ち上がらねば)》2014

しばしば動物をモチーフに作品制作をしてきた作家は、活動の拠点をアラスカへ移してから、熊に注目した一連の作品に取り組んでいます。北米では古来神聖視されてきたという熊は、本作では世界の多様性と差異を示す存在であるかのように、ユーモアあふれるタイトルと色鮮やかな羽で覆われています。

ワエル・シャウキー



《十字軍芝居 III：聖地カルバラーの秘密》より 2015

十字軍の時代に起きた重要な出来事や人間ドラマを、クルアーン(=コーラン、イスラム聖典)に記された古典アラビア語などを用いた人形劇で再現することによって、ヨーロッパ側の視点で編まれた「歴史」をアラブ世界の視点で再解釈してみせます。歴史の多様な記述や解釈に見られる接点や隔たりが、壮大な物語のなかで浮き彫りとなります。

構想会議メンバー

ヨコハマトリエンナーレ2017では、世代や分野の異なる専門家で構成される構想会議を発足させ、ディレクターズとともに、既存の思想的な枠組みや専門領域の壁を越えた分野横断的な議論を行い、タイトルとコンセプトを決定しました。

スハーニャ・ラフェル (M+美術館 エグゼクティブ・ディレクター)

アートは、多元性や多様性を取り入れながら私たちが思いかけず感動させ、また対話へと導く

今日、ビエンナーレやトリエンナーレは、数の増加とともに「マルチ・セントリック」になり、目的の多様化、ジャンルもアート以外を横断して扱うようになりました。「島と星座とガラパゴス」は、アートを通して、日本と世界の関係を考える時に、様々な可能性を開く試みです。今日、アートは、これまで以上に複数の社会、文化、歴史と密接に繋がっています。現代アートは、領域を広げ、多元性や多様性を取り入れながら私たちが感動させ、立場の異なる者同士を対話へと導くのだと信じています。

スブツニ子! (アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教)

アートなら、人種、宗教、価値観の摩擦を、繋げることで和らげることができるのではないかな

世界が、今、複雑なコンピュータの配線のようにぐちゃぐちゃに絡み合っているとすると、アートは、その配線を繋ぎ変えたりして他の新しい視点を見せることで、人に新たな発見や刺激を与える。私は、アートには、何かの役割を果たす可能性がある、と思います。そして、アートなら世界中に点在する「ガラパゴス」を、これまでになく方法で繋げることができる。世界中で起こっている人種、宗教、価値観等の摩擦を、繋げることで和らげることができるのではないかなと思っています。

高階秀爾 (美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授)

海は世界を繋げると同時に遮るもの、それが美術や文化を発展させました

星座は、人間が様々な想像力を働かせて作り出したひとつの形です。同時に、海を航海する人々の目印にもなりました。その海に囲まれ、それが障害となった島がガラパゴスです。そこでは、長い歴史の中で様々な生物が独自の進化を遂げました。海は、世界を繋げると同時に遮るものでもあります。この多様な働きが、美術、更には文化を発展させました。ヨコハマトリエンナーレ2017では、この営みを、様々な表現を通じて世界に発信します。

リクリット・ティラヴァーニヤ (アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授)

繋がることで「Contamination (汚染)」されて、強さを得るのです

「島と星座とガラパゴス」を考える上で、「contamination」(汚染)ということばをご紹介します。私は、これを「他者との関係により自己が変わり続けていくこと」と定義し、変化への抵抗感や孤立した状態を失うことへの恐れに関連づけて考えたいと思います。最近の世界情勢には、「contamination」に対する恐れが存在すると思います。星々が星座を構成するとき、星は個体としての存在を失いますが、繋がることで「contamination」されて、強さを得るのです。

鷺田清一 (哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長)

私たちは、適正なサイズの社会に軸足を移す、「地方(じがた)」として自立する必要があります

現在、私たちは、エネルギーや経済の動き、富の分配の仕組みといった生活基盤を、自らの手でコントロールすることが困難になっています。この濁流から這い上がるために、私たちは、適正なサイズの社会に軸足を移していく必要があります。各地域が、中央に対する地方ではなく「地方(じがた)」として自立していく。ヨコハマトリエンナーレ2017では、これが群島や星座というイメージで語られます。どのような世界が展開されるのか、とても楽しみです。

養老孟司 (解剖学者、東京大学名誉教授)

0と1の間には「無限」があり、アートは、それを取り扱うものだと思うのです

今の世の中、全ての信号がデジタル化され、そこは、0と1しかない完全な「コピー」の世界です。私は非難しているのではなく、そうなることが、現代社会の必然であったのです。ただ、この流れが世界を動かすようになっていくことには、ちょっと気をつけたほうがいい。私の関心は、現代とは逆向きの「自然」です。同様に、アートも他の「人間が作ったもの」とは違うと感じています。0と1の間には「無限」があり、アートは、それを取り扱うものだと思うのです。

公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」

ヨコハマラウンドは、様々な分野の専門家を招き、円卓（roundtable）を囲むように何回かにわたって（rounds）対話・議論を重ねます。開幕に先立ち2017年1月より開始し、閉幕に合わせて「ヨコハマトリエンナーレ2017宣言」で締めくくります。

プログラム（2017年4月18日現在） ※日程、プログラム内容、登壇者は変更する場合があります。

	日程	テーマ	登壇者	[総合進行：三木あき子]
開幕前	ラウンド 1 1月15日（日）	0と1の間にあるアート 0と1のデジタルの世界が進む現代社会におけるアートの意味とは？	養老孟司 （解剖学者、東京大学名誉教授） 布施英利 （美術批評家・解剖学者）	
	ラウンド 2 3月25日（土）	創造と汚染 異なる文化や言語、価値の交差、混淆と混濁。そこに生じる問題と新たな創造の豊かさについて、世界が保守化する今、改めて考える。	リクリット・ティラヴァーニヤ （アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授） 今福龍太 （文化人類学者・批評家、東京外国語大学大学院教授） スプツニ子！ （アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教）	
	ラウンド 3 5月28日（日）	島とオルタナティブ：歴史・社会、医療、アート 島をキーワードに、幅広い視点から従来の価値や世界観とは異なるオルタナティブな方向性、可能性を探る。	マップオフィス （アーティスト） 稲葉俊郎 （医師、東京大学医学部附属病院循環器内科助教） 吉見俊哉 （社会学・カルチュラルスタディーズ研究者、東京大学大学院教授）	
	ラウンド 4 8月4日（金） ー5日（土）	繋がる世界と孤立する世界 現代の世界の接続性と孤立性を、詩的かつ批評的に読み取るアーティストたちの視線と活動とは？	参加アーティストから20名程度を予定	
会期中	ラウンド 5 8月26日（土）	ガラパゴス考察 環境の中で変化しつつ持続する自律的な生命の観点から、自然、社会、インターネットなどを考える時に見えてくる新たな可能性とは？	ドミニク・チェン （情報学研究者、早稲田大学文学学術院准教授） 長谷川真理子 （行動生態学・自然人類学者、総合研究大学院大学学長）	
	ラウンド 6 9月18日（月・祝）	新しい公共とアート 孤立と接続というテーマを踏まえて、公共空間はどのように変わっていくのか、また都市、建築、アートの関係とは？ 〈横浜国立大学大学院Y-GSAとの共催〉	北山恒 （建築家、横浜国立大学名誉教授） 内藤 廣 （建築家、東京大学名誉教授） 西沢立衛 （建築家、横浜国立大学大学院教授） 小林重敬 （都市計画学者、横浜国立大学名誉教授）	
	ラウンド 7 10月21日（土）	我々はどこから来てどこへ行くのか？ 壮大な時間・空間の繋がりの中で、我々の今・ここにある生をどのように捉えるか、これからの生き方、未来の模索における創造・表現の意味とは？	畠山直哉 （写真家） 平野啓一郎 （小説家） 小林憲正 （宇宙生物学者、横浜国立大学大学院教授）	
	ラウンド 8 11月3日（金・祝）	より美しい星座を描くために：アートの可能性とは？ 先行きの不透明な今、アートは見えないものの間を繋げ、未来のヴィジョンやデザインへの発想の転換や思考の飛躍を可能にするのか？	構想会議メンバー＋ディレクターズ	
閉幕時				

ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に楽しめるアートプログラム

「セット券」で鑑賞できるプログラム

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」と合わせて「BankART Life V」と「黄金町バザール2017」が楽しめます。BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）とヨコハマトリエンナーレ会場を回る「会場間無料バス」も運行します。

BankART Life V ―観光～台湾・横浜・韓国

今回のテーマは、「観光」です。開港から今日まで、実験的な都市デザインを推進し、文化を育んできた横浜。そんな創造都市横浜の、忘れられた場所、眠っている場所を巡る時間旅行のプログラムです。NYK～黄金町ゾーンを大岡川沿いに往くコースと馬車道～伊勢佐木町を往くコース2つを用意しました。公開空地、河川上、空き地、開発予定ゾーン、デジャブ商店街、クリエイターのアトリエ、歴史的建造物等、これまで横浜を形成してきた様々なエレメントの断面を巡ることで、新しい横浜が姿を見せてくれます。オプションとしては、郊外団地、横浜の農業、建築家が設計した住宅等、様々なツアーが催行される予定です。その他、「ふたつの老松小学校（台北横浜編）」、「続・朝鮮通信使」など、海外ツアーも企画しています。



©BankART1929

セット券：料金は19ページをご確認ください。

（BankART Life Vのみの入場は1,000円）

会期：8月4日（金）～11月5日（日） 休館はヨコハマトリエンナーレ2017に準ずる

開場時間：10:00 - 19:00 延長（ヨコハマトリエンナーレ2017終了時間+1時間）

会場：BankART Studio NYK（中区海岸通3-9）ほか

主催：BankART1929

お問い合わせ：045-663-2812

URL：<http://www.bankart1929.com/>

※BankART Life Vと併せて「日産アートアワード2017」展（9月16日（土）～11月5日（日）、
休み：第2・4木曜）もBankART Studio NYKで開催されます。（入場無料）

URL：<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NAA/>

黄金町バザール2017 ―Double Façade 他者と出会うための複数の方法

黄金町バザールは、黄金町エリア全域に展開するアーティスト・イン・レジデンス事業を背景に、アートとコミュニティの関係、アジアとの交流をテーマに2008年より毎年開催しているアートフェスティバルです。10回目の節目となる今回はゲストキュレーターに窪田研二氏を迎え、双方向から働きかけ合う関係、そして互いの異質性を理解しながら、互いに敬意をもって共存することができる世界について問いかけることをテーマに開催します。国内外のアーティストの滞在制作と作品展示の他、地域住民が主体となって行うイベントや、地域の貴重な資源である大岡川を活用したプログラムなど多彩な内容で展開します。



黄金町バザール2016
Photo by Yasuyuki Kasagi

セット券：料金は19ページをご確認ください。

（黄金町バザール2017のみの入場は700円/パスポート制、中学生以下無料）

会期：[vol.1] 8月4日（金）～9月13日（水）

[vol.2] 9月15日（金）～11月5日（日）

休場日はヨコハマトリエンナーレ2017に準ずる

開場時間：11:00 - 18:30

会場：初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）、京急線「日ノ出町駅」から「黄金町駅」間の高架下スタジオほか

主催：認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

お問い合わせ：045-261-5467

URL：<http://www.koganecho.net/koganecho-bazaar-2017/>

期間中に横浜で開催される主なアートプログラム

市内にある6つの創造界隈拠点(※1)やその他の施設でも多数のアートプログラム等が開催され、横浜のまち全体でトリエンナーレを盛り上げます。

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017



ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014
Photo: 427FOTO

障がいのあるなしに関わらず多様な市民やアーティストらが対等な立場で芸術活動に取り組むことで、障がいのある方が社会活動に参加する機会をつくり、あらゆる立場の人が関わりを持つ寛容性のある共生社会の実現を目指すアートプロジェクトです。

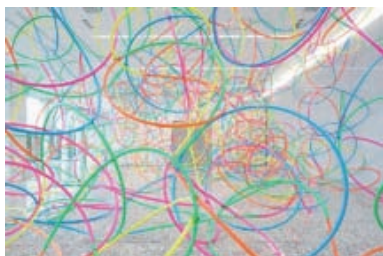
会期: 5月27日(土) - 12月末予定

会場: 象の鼻パーク、象の鼻テラスほか

主催: 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル

お問い合わせ: 045-661-0602 / URL: <http://www.paratriennale.net/>

YCC Temporary 鬼頭健吾



untitled(hula-hoop) (2005-2015)
Photo: 木暮真也

YCC ヨコハマ創造都市センター主催のアートプログラム・シリーズの第3弾です。

会期: 8月4日(金) - 9月17日(日)

開場時間: 11:00 - 18:00 ※金土祝19:30まで(入場は閉場の30分前まで)

会場: YCC ヨコハマ創造都市センター 3階

主催: YCC ヨコハマ創造都市センター(特定非営利活動法人 YCC)

お問い合わせ: 045-307-5305 / URL: <http://yokohamacc.org>

スマートイルミネーション横浜2017

<http://www.smart-illumination.jp/>

※1「創造界隈拠点」とは

横浜の最大の強みである「港を囲む独自の歴史や文化」を活用し、芸術や文化の持つ「創造性」を生かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す都市づくりをすすめる「創造都市横浜」の施策の一環として、都心臨海部の歴史的建造物や倉庫、空き店舗、公共空間等を有効活用し、創造的な活動を発信する施設です。

横浜市内には現在、BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区(黄金町エリア)、象の鼻テラス、YCC ヨコハマ創造都市センターの他に、舞台芸術創造活動拠点である「急な坂スタジオ」、「スポーツ×クリエイティブ」をテーマとして2017年3月に新たにオープンした「THE BAYS」を含めた6つの創造界隈拠点があります。

象の鼻テラス

<http://www.zounohana.com/>



Photo: DAICI ANO

急な坂スタジオ

<http://kyunasaka.jp/>



THE BAYS

<https://www.baystars.co.jp/thebays/>



ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム

ヨコハマトリエンナーレ 2017 の会期中に、市民、企業、アーティスト・クリエイターの皆さまが主催する、文化・芸術分野の活動やタイトルの「島」「星座」「ガラパゴス」に関連したイベントなどが「応援プログラム」として開催されます。

ヨコハマトリエンナーレ 2017 を一緒に盛り上げ、賑わいを創出しながら、まちの魅力を発信していきます。



応援プログラム

《応援プログラムのお申込み》

ヨコハマトリエンナーレ 2017 公式ウェブサイト「応援プログラム」

<http://yokohamatriennale.jp/news/2017/02/2017-8.html>

※応援プログラムは2017年2月28日から募集を開始しています。

ヨコハマトリエンナーレ2017を盛り上げる市民活動

「ハマトリーツ！」（横浜トリエンナーレサポーター）

「ハマトリーツ！」は横浜トリエンナーレを盛り上げる市民サポーターです。展覧会に携わるボランティア活動として誕生し、これまで展覧会の運営サポートや市民ならではの目線で広報活動を行い、また主体的な活動を通じて、多くの仲間を増やしています。メンバーは「アートが大好き」、「まちづくりに興味がある」などさまざまな趣向を持つ方々が集まり、10代から70代までと幅広い年齢層のメンバーと一緒に活動しています。

※ハマトリーツ!(Hama-Treats!)の由来

「トリーツ／Treats」とは「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味で、「ハマトリーツ！」という愛称には「横浜トリエンナーレを通して愛する横浜の“Treat”を広く世界に発信していく人たち」という思いが込められています。サポーターからの公募により決定しました。



ヨコハマトリエンナーレ2017での主な活動

- ビジターサービスセンターでの来場者のおもてなし
- 作品ガイド活動
- アーティストの作品制作や運営サポート
- サポーター企画によるイベント実施や情報発信（フリーペーパー発行など）ほか

《サポーター登録の申込み・お問い合わせ》

横浜トリエンナーレサポーター事務局

〒220-0012 横浜市内西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内

TEL：045-228-7816(10:00-18:00／土日祝休み) FAX：045-681-7606 MAIL：info@yokotorisup.com

横浜トリエンナーレサポーター公式ウェブサイト：www.yokotorisup.com

チケット情報

ヨコハマトリエンナーレ2017鑑賞券

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市開港記念会館地下に会期中 1 回ずつ入場できます(別日程も可)。入場当日は、同一会場に限り再入場いただけます。

セット券

「ヨコハマトリエンナーレ 2017 鑑賞券」「BankART Life V パスポート」「黄金町バザール 2017 パスポート」がセットになったお得なチケットです。「BankART Life V」および「黄金町バザール 2017」には、会期中何度でも入場できます。

ヨコハマトリエンナーレ2017	一般	大学・専門学校生	高校生(中学生以下無料)
鑑賞券	前売 1,500円(当日 1,800円)	前売 900円(当日 1,200円)	前売 500円(当日 800円)
セット券	前売 2,100円(当日 2,400円)	前売 1,500円(当日 1,800円)	前売 1,100円(当日 1,400円)

[無料で入場いただける方]

・中学生以下の方

・障がいのある方 * とその介護者(1人)

* 対象: 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、愛の手帳(療育手帳)、特定疾患医療受給者証、自立支援医療受給者証およびこれらに類する証書の交付を受けている方

[20 枚以上一括購入割引料金]

券種・区分を問わず 20 枚以上のチケットを一括購入する方には割引料金の設定があります。

前売券(1 枚あたり 150 円割引) 販売窓口: ヨコハマトリエンナーレ 2017 チケット販売センター

当日券(1 枚あたり 200 円割引) 販売窓口: 横浜美術館会場および横浜赤レンガ倉庫 1 号館会場(会期中の開場日のみ)

販売期間

前売券: 2017年4月21日(金) - 8月3日(木) 当日券: 2017年8月4日(金) - 11月5日(日)

チケット取扱場所

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、BankART Studio NYK、黄金町アートブックバザール、プレイガイド、鉄道駅売店 ほか

公式オンラインチケット発売

PC・スマートフォンから直接チケットを購入いただけます。

公式オンラインチケットサイトでのみ取り扱う「特典付きスペシャルチケット」も販売します。

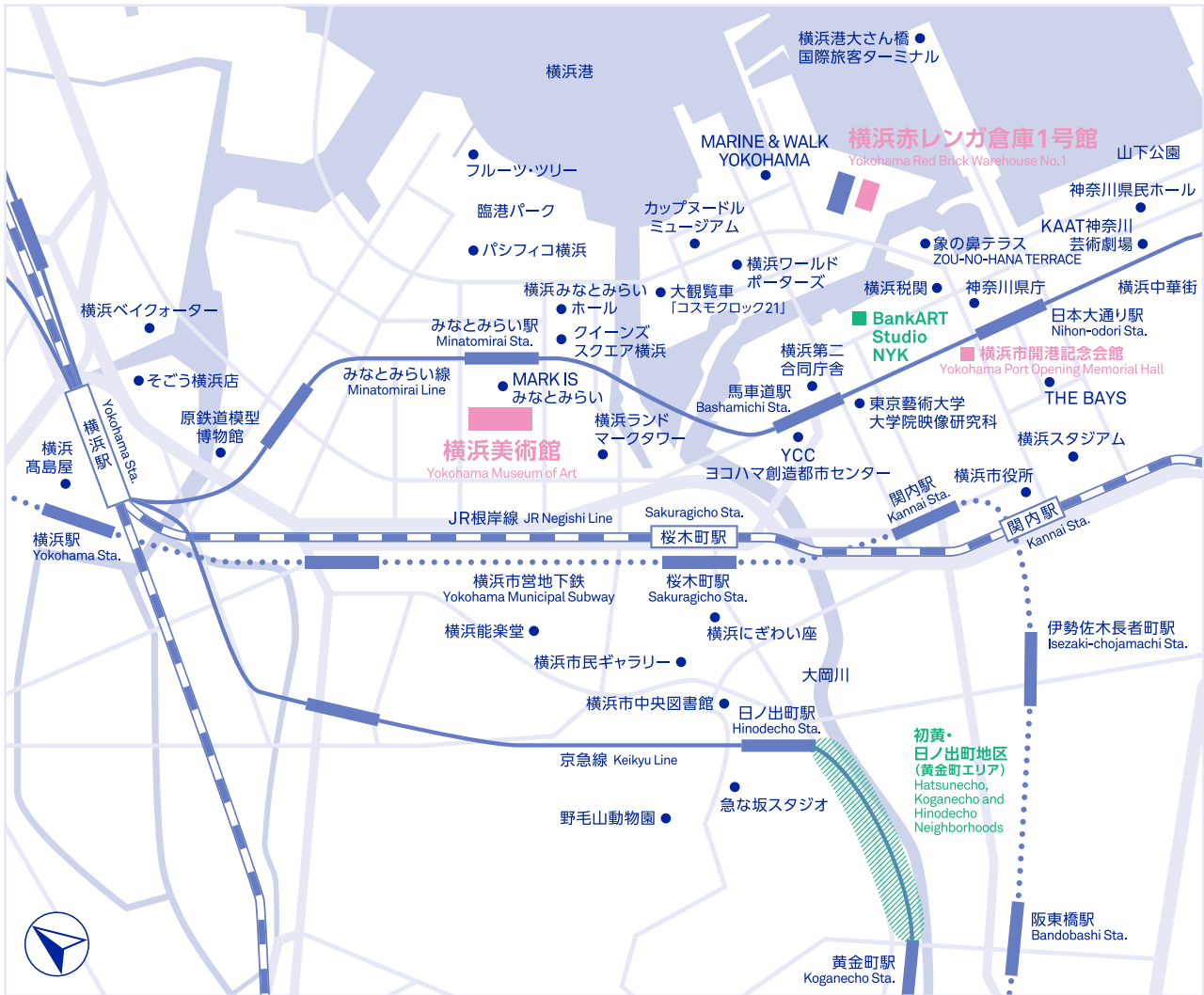
※チケット取扱場所の詳細および公式オンラインチケットは、

ヨコハマトリエンナーレ 2017 公式ウェブサイト(www.yokohamatriennale.jp)をご確認ください。

《チケットに関するお問合せ》

ヨコハマトリエンナーレ 2017 チケット販売センター TEL: 045-478-6090(10:00-12:00、13:00-17:00/ 土日祝休み)

交通アクセス・案内図



横浜美術館／横浜市西区みなとみらい3-4-1
 みなとみらい線「みなとみらい駅」3番出口から徒歩3分
 JR線および横浜市営地下鉄線「桜木町駅」から
 <動く歩道>利用 徒歩10分

横浜赤レンガ倉庫1号館／横浜市中区新港1-1-1
 みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」徒歩6分
 JR線および横浜市営地下鉄線「関内駅」
 または「桜木町駅」徒歩15分

横浜市開港記念会館／横浜市中区本町1-6
 みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩1分
 JR線および横浜市営地下鉄線「関内駅」徒歩10分

会場間無料バスの運行

会期中、ヨコハマトリエンナーレ2017チケットをお持ちの方がご利用いただける、
 横浜美術館／横浜赤レンガ倉庫／BankART Studio NYK付近／初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）を
 結ぶ会場間無料バスを運行します。

支援／特別協力／後援／特別協賛／協賛／助成／認証

[支援]



文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

[特別協力]

独立行政法人国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団

[後援]

外務省、神奈川県、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

[特別協賛]



[協賛]



都市に豊かさと潤いを

三井不動産グループ

人を、想う力。街を、想う力。

三菱地所グループ



公益財団法人 大林財団



[助成]

公益信託タカシマヤ文化基金



[認証]



横浜トリエンナーレについて

- 使命 横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。
- 目標
- アートでひらく ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。
- 世界とつながる ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。
- まちにひろがる 創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。
- 行動方針 世界水準 次世代の育成 市民参加 祝祭性 賑わいづくりと経済活性化

これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)	2014年(第5回)
テーマ／ 展覧会タイトル	横浜トリエンナーレ2001 メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	横浜トリエンナーレ2005 アートサーカス [日常からの跳躍]	横浜トリエンナーレ2008 TIME CREVASSE タイムクレヴァス	ヨコハマトリエンナーレ2011 OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで知ることができるか?—	ヨコハマトリエンナーレ2014 華氏451の芸術： 世界の中心には 忘却の海がある
ディレクター／ キュレーター	[アーティスティック・ ディレクター] 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ベアトリクス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティスティック・ ディレクター] 三木あき子	[アーティスティック・ ディレクター] 森村泰昌
会期 (開場日数)	9月2日—11月11日 (67日間)	9月28日—12月18日 (82日間)	9月13日—11月30日 (79日間)	8月6日—11月6日 (83日間)	8月1日—11月3日 (89日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール (C、D) ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア (新港ふ頭展示施設) ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア (新港ふ頭展示施設)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)／1コレクション	65組(79作家)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)※	約35万人(約35万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)	約21万人(約21万人)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚
ボランティア／ サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催: (公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜市 (公財)横浜市芸術文化振興財団 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会

※入場者数は延べ人数
※事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)

横浜トリエンナーレ組織委員会

(2017年1月25日現在) ※会長、委員は50音順

名誉会長： 上田良一 NHK会長
林 文子 横浜市長(代表)
渡辺雅隆 朝日新聞社社長

委員：

市村友一 朝日新聞社企画事業本部長
逢坂恵理子 横浜美術館館長
佐々木建史 NHK事業センター専任部長
澤 和樹 東京藝術大学学長
澄川喜一 (公財)横浜市芸術文化振興財団理事長(委員長)
高階秀爾 大原美術館館長
建畠 哲 多摩美術大学学長
柄 博子 国際交流基金理事
中山こずゑ 横浜市文化観光局長

《記者会見資料に関するお問い合わせ》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当：西山、高橋
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内
TEL: 045-663-7232 (平日10:00～18:00) FAX: 045-681-7606
E-MAIL: press@yokohamatriennale.jp

